「中国地区コンクリート関係者連絡会議（仮称）設立へ」

他業種間の対話の場つくり連携を

産学官のキーマン募集 4月から本格始動

設計・施工だけでなく、生コンや二次製品業界も含めた大きな輪を―。広島工業大学教授でコンクリートの専門家として知られる十河茂幸氏が、今年3月に定年退職を迎えるのを機に「中国地区コンクリート関係者連絡会議（仮称）」ともいうべき、コンクリート従事者の連絡組織の設立を目指している。大林組を退職後、広島に着任して約8年。技術支援活動などを通じて築いた産・学・官の人脈を生かし、コンクリート技術者としての息返しを期す十河氏に、経緯や課題、目指すべき目標などについて聞いた。

（聞き手は本紙代表取締役社長・細井正博）

―まず、連絡組織の設立を思い立った経緯を教えて下さい。

広島工大での6年間、学生を教える傍ら、中国地方整備局、防衛省、NEXCO、広島県などで技術面や入札関係での支援、さらに学生の就職活動を通じて様々な地元企業とお付き合いさせてもらい、充実した時間だった。

その中で感じたことは、コンクリートに携わる専門業種それぞれではまとまっているが、他業種間の連携が見えないこと。連携なくして合理的な仕事はできない。違う業種間でお互いに理解しあえる場が作れないかと考えた。

―連携が見えないのは、なぜですか。

ひとつは、建設業が成熟したせいだと思う。昔はポンプも生コンもセメントがやっていたが、現在は合理化が進み、それぞれが専業者になり専門性が高くなった。ゼネコンはポンプや生コンのことが十分分かっていないし、設計や生コン業者なども施工には詳しくない。分離発注の状況下ではある程度は仕方がないとはいえ、連携不足による問題はかなり前から起きている。

もうひとつは、地域特有の問題だ。1県だけならまとまりやすいが、広島は中国地方の中心。日建連やコンサルタント協会の中国支部があり、業種ごとに中心的な役割を担っている。それゆえ、異業種間のコミュニケーションは希薄だ。おそらく、時間的な余裕がないことも要因だと推察している。

―具体的にどのような課題があるのでしょう。

例えば、新設構造物で耐久性の高いものを作るには、施工のもまず設計が重要。そのため、私が幹事を担当した平成19年（2007年）制定の土木学会コンクリート標準示方書では、ひび割れや耐久性に関する特性値を設計図に明記し、必要な配合条件などの参考値を示すよう改訂した。しかし、一向に進んでいない。

理由は、設計者のコンクリート施工技術に関する知識不足と施工者の設計に関する知識不足、さらに「コンクリートのことはコンクリート屋に聞いて」と考えている技術者が少なくないこと。責任が伴うのでやりにくいということもあるだろう。

技術が多様化し、すべてのインフラに関わる技術（計画、設計、製造、施工、維持管理など）の一連の流れを説明できる技術者は、ほとんどいなくなってしまった。コンクリートに携わる設計技術者が施工のことを知らないのは、施工の技術者が設計を理解できないことと同じだ。

砕石業界からは、良い骨材を作っても高くて売れないという声を聞く。良い材料を使って高耐久のコンクリートにすれば、全体のコストを下げられることもあるはずだが、コスト優先で連携が乏しい現状ではその議論が成り立たない。発注者もお金を出すには理由付けが必要だ。連携すること で、お金を出す正当な理由付けもできやすくなるのではないか。

また、維持管理においても同様のことが言える。構造物の施工を知らなければ補修材料の知識があっても仕事にならないし、補修材料と施工技術を知らなければ、適切な補修設計はできない。技術の交流こそが今後重要となる。

―その補修ですが、中国地方の現状はどうですか。

中国地方、特に広島は使用していた骨材の影響で、塩害とASRによる劣化が多いのが特徴。いかに延命化するかは、大きなテーマだ。国や自治体もようやく本腰を入れ始めており、いま一番進歩している。進歩しながら改めなければいけないのが補修。今後も絶対に減らないし、もっと仕事として成り立つようにする必要がある。

―どのような人に参加してもらい、どのような会を目指しますか。

考えているのは、新設、補修、材料、製品などコンクリートに関わる全ての分野。地元に明るい仲間に助言をもらいながら、色々な人にお願いする予定だが、意見がまとまらなくなるのは困るので、誰でも入れる会にはしない。各業界に精通したキーマンを絞り、その方々を中心に進めていくことになるだろう。

広島県は、さらには中国地区で異業種交流の場を築くことで、連携強化と合理的なインフラ整備につながると考えている。

―設立はいつ頃ですか。

4月から時間ができるので、それから1年間程度を準備期間として考えている。早くて今秋頃には何らかの形にできれば。当面の連絡先として、（一社）コンクリートメンテナンス協会（広島市中区東千田町2―3―26、電話082―541―0133）の事務所をお借りする予定だ。

―最後に、コンクリート従事者の方々へメッセージをお願いします。

私がお願いするよりも、趣旨に賛同して意欲的に参加してくれる方を募集したい。私は大学教授でなくなるが、大学にも協力してもらわなくてはできないし、官庁や各業界との連携は絶対に必要だ。コンクリートはインフラの基本でもあるし、これをきっかけにインフラ全体の話にもつなげていければ。

＝十河茂幸（そごうしげゆき）＝

昭和49年に九州工業大学大学院を修了し、大林組に入社。同社技術研究所に37年間所属し、平成23年から広島工業大学に。座右の銘は「流れに逆らわず、流されず」。趣味は写真や漢詩、麻雀、テニス、ゴルフ、ボウリングなど多彩だが、「一番本気になったのがコンクリート」。写真を撮るため、あちこち歩くことが健康法。家族は東京に残して現在は単身赴任中、昭和23年4月5日生まれの68歳。呉市出身。

広島県コンクリートメンテナンス協会

会長 徳納 剛

〒730-0053
広島市中区東千田町2-3-26
Tel.082-541-0133　Fax.082-541-0133
http://www.hcma.jp/

1998年、コンクリートの補修はエポキシ樹脂等の有機系補修材が主流の時代でした。無機には無機の補修材が良いのではないかと疑問を感じていた広島県内に本社を置くコンクリート構造物の補修専業者で、広島県コンクリートメンテナンス協会を設立しました。無機材料にこだわるのではなく、無機及び有機それぞれの材料の持つ特性を十分に理解して適切な補修設計と施工を行うこととしています。

【会員】

福徳技研㈱
エヌエル産業㈱
㈱河本組
日本ロードテック㈱
㈱宥免組
井上建設㈱
㈱広成
国土技建㈱
しんや㈱
第一美研興業㈱
㈱大胡興業
㈱テクシード
㈱ヒノデ開発
広島ガステクノ・サービス㈱
㈱広島みかど
三興建設㈱

一般社団法人 コンクリートメンテナンス協会

〒730-0053　広島市中区東千田町2-3-26
Tel.082-541-0133　Fax.082-541-0133
http://www.j-cma.jp/

【会員】

福徳技研㈱
井上建設㈱
極東興和㈱
広島ガステクノ・サービス㈱
福留開発㈱
㈱荒木塗装
㈱國本建設
㈱九コン
山口インフラテック㈱
㈱サンクリエイト
サン・ロード㈱
㈱富田組
㈱国際
㈱パドス
福美建設㈱
㈲ハヤシ・プロップ
西田塗装㈱
㈱南防
東日本コンクリート㈱
㈱技工社
ダイクレ興産㈱
㈱アマノ
㈱ビー・ビー・エム
前田工繊㈱広島支店
中国商工㈱
東建設㈱
田島ルーフィング㈱
㈱杜都エンジニアリング
㈱小野工業所
㈱アイ・ディー・エフ
㈱日栄建設
アオイ化学工業㈱
平井建設㈱
コスモ技研㈱
アズマ
佐藤土木㈱
ダイホーコンサルタント㈱
ニューター
北部組
京葉プラントエンジニアリング㈱
㈱HIインフラ建設
㈱シオワン
㈱ヤナガワ
㈱トラスト工業
㈱光産業
日光産業所
㈱若宮塗装工業所
西奈美組
㈱サンエスイーリベア
西日本補修㈱
㈱総合開発
㈱佐久間組
渡辺建設㈱
山長
三目
㈱黒建
㈱北洋
河村組
中村建設
大野建設
三川土木
カボテック
㈱リフレ・テック
佐多エンジニアリング㈱
㈱正和工業
藤崎建設㈱
東起業㈱
㈱田中組
㈱三栄商会
朝日エアーブライズ㈱
萩森興産㈱
㈲沖塗工業
㈱サンヨーテックサービス
㈱會澤高圧コンクリート
㈱アーテック
㈱CORE技術研究所